

これまでの研究成果のまとめ

吉野裕高

私は強い重力場における物理, 特にブラックホールを研究してきた. 一般相対性理論を足場としているが, 研究目的はこれまで検証されていない新しい物理理論の証拠をどのように観測的につかめるかを明らかにすることである. 技術的には重い数値計算を得意としているが, 同時に純粋数学的な研究もおこなっている. 研究テーマを順に述べる.

高次元ブラックホール (2011 年以前)

この時期は, 高次元時空の重力現象を調べた. その動機は, 超弦理論のような多くの理論が見えない余剰次元の存在を示唆することである. 特に「ブレーンワールドモデル」はゲージ粒子と相互作用が3次元の「膜」に束縛され, 重力のみが余剰次元を伝わりとする. 余剰次元は 1mm まで大きくてよく, 4つの相互作用が統一されると思われるプランクエネルギーが TeV 程度にまで低くなりうる. すると, 加速器で高次元のミニブラックホールが形成される可能性がある. 特に重要な成果を出した論文は,

- 論文 [I-29]: 高エネルギー粒子衝突におけるブラックホール形成の断面積の計算,
- 論文 [I-14]: 高次元数値相対論の定式化とコード開発

である. [I-14] で開発された方法を用いて, 高次元の高速回転ブラックホールが非軸対称モードの摂動に対して不安定であることを示した [I-8].

ブラックホールまわりのアクシオンの場が引き起こす現象 (2011 年以降-現在)

2011 年より, 4次元ブラックホール時空での有質量スカラー場の振る舞いを研究している. この研究は, 超弦理論によって引き起こされる低エネルギー現象を見つけようとする試みと関連する. 超弦理論では余剰次元の形を変化させるモードが存在し, それらは4次元時空の場として振る舞う. その一部は小さい質量を持つスカラー場 (アクシオンの場) となる. そのようなアクシオンの場は, 宇宙論や天体物理の分野で観測可能な現象を引き起こすかもしれない. これまでにあげた重要な成果は,

- 論文 [I-4, I-9]: 回転ブラックホールまわりのアクシオンの場のシミュレーション

である. 回転ブラックホールのまわりでは, スカラー場が回転エネルギーを引き抜いて増幅し (超放射不安定), アクシオンの雲を形成する. 私はスカラー場の振幅がある地点まで増大すると, 非線形自己相互作用が激しい現象をおこすことを明らかにした. また, アクシオン雲によって放射される重力波を計算するためのコードを開発している. ブラックホールが回転していない場合にはコードを完成させ, 論文 [I-4] でレポートした. 得られた結果は, 非線形効果が効く状況ではバースト的な重力波が放射されることを示唆する.

ブラックホール周辺の光の振る舞いの研究 (最近の研究)

最近ブラックホール周辺の光の振る舞いに興味を持っている [I-1, I-2, I-3]. 動機は, 近い将来, ブラックホール近傍を電磁波観測できる可能性があり, それをもとに一般相対論の検証が可能となる. その際にブラックホールまわりの光の振る舞いを調べておくことは重要である. 私は, 光子面 (photon surface) と呼ばれる光がその上にとどまりつづけるような面の性質を調べた. 光子面は特別な場合 (シュバルツシルト時空) にしか存在しないことを示し [I-3], その面積が $4\pi(3M)^2$ よりも小さいことを証明した [I-1].